資料１

前回部会における委員の主な御意見

10 月 21 日（月）の第 4 回環境審議会資源循環部会における各委員からの御意見は下記のとおり
（資料の質問に対する事務局説明等は割愛）【五十音順】。

1　濃沼委員

〇意見１

多摩川の浚渫工事で発生する汚泥等を含めて、大量に発生する廃棄物のデータをしっかりと把握していくことが、適正な処理を検討していくうえで必要である。

〇意見２

中間処理業者の取組に加え、川崎市の事業者と連携したリサイクルの取組も強みとして謳うとよい。

〇意見３

食品ロスに関連して、海外では、持ち帰り用の容器を再利用しているケースも多く、日本でも一般化していくと良い。

2　篠倉委員

〇意見１

既存の施策に加えて、ごみをポイ捨てしても何とも思っていない人に対して届くような施策が重要である。

3　高橋委員

〇意見１

分別マナーがまだまだ伝わっていないところもあるが、市民の皆さんは、住みよいまちのため、毎日、自分の地域を守っており、分別マナーの向上も実っていくとよい。

4　寺園部会長

〇意見１

川崎市内で発生、処理される産業廃棄物をどうやって減らしていくか、特に川崎市内の産業活動というものをうまく循環経済の方向に持っていくことが重要である。

〇意見２

産業廃棄物の目標としては、全体の再生利用率に加えて、脱炭素化と関係が深いプラスチックの再生利用率も掲げるのはよいと思う。

〇意見３

再生利用率について、国や川崎市の考えをもう少し出すと良い。事業者の方にとっては、再生利用率を取り上げてもらうということは評価してもらうことであり、行政からのお墨つきをもらうことに繋がる。

〇意見４

紙おむつの水平リサイクルは鹿児島県志布志市など、中小規模の人口に限定された都市で実施されているため、リサイクル技術が集積している川崎市でも、進めていただければ、将来的にもう少し良くなる可能性もあると思う。

〇意見５

まち美化について、もう少し違う観点のアイデアとして、若い方々や子どもさんなどにアイデア募集をして、良いものは実行するようなことを考えてみるとよい。

5　徳野委員

〇意見１

注文するときに食べきれる量を注文できるなど、食品ロスが出ないようにすることも大切である。

6　藤倉委員

〇意見１

下水道汚泥の住民のし尿に起因するようなものは減らせないため、工業的な汚泥がどのぐらいか現状を調べておくと良い。

〇意見２

自分がごみを落としても拾わない人がいるため、自分が落としたごみは必ず拾う啓発も必要である。

7　宮脇副部会長

〇意見１

産業廃棄物に係る発生段階からの資源化の推進は、高度化法の動き等もあり事業者に頑張ってくださいだけでなく、市と市内業者で枠組みができるとよい。

〇意見２

産業廃棄物の目標値について、全体と廃プラの両方の目標を出すのは良い。汚泥は減量化が多く全体の再生利用率があまり上がらないと聞いたが、それを丁寧に説明した上で、再生利用率を上げていくことが大事である。

8　森川委員

〇意見１

廃プラスチック類の再生利用率の数値が上がっていない業種については、静脈産業側として取り組まなければいけないところである。

9　渡辺委員

〇意見１

リサイクル率を上げていく必要があるのはよく分かる。需要と供給のバランスがしっかりしていないと、リサイクルして良い物を作っても売れないと商売はしないため、行政からあるべき方向性を示して欲しい。